

令和2年度

元気な森林づくり活動支援事業

事例集

令和3年6月

茨 城 県

目次

(令和2年度事業)

1 森づくり

いばらき森林クラブ（常陸太田市）	3
つくばフォレストクラブ（つくば市）	4
つくば森林クラブ（つくば市）	5
なか自然の会（那珂市）	6
奥野里山山ゆり会（牛久市）	7
神栖市美化運動推進連絡協議会（神栖市）	8
水戸森林クラブ（ひたちなか市）	9
CAMP VILLAGE（笠間市）	10
森の守り人（水戸市）（森林づくり+木づかい）	11
薬師樹林を再生する会（水戸市）（森林づくり+木づかい）	12

2 木づかい

特定非営利活動法人やみその森（笠間市）	14
スタジオやさび（石岡市）	15

3 森林環境学習・森林づくり

特定非営利活動法人エコ・グリーンいばらき（水戸市）	17
特定非営利活動法人宍塚の自然と歴史の会（土浦市）	18
茨城県南アイデア研究会（龍ヶ崎市）	19
おおいがわ事務所プロボノ研究会（阿見町）	20
結城里山の会（結城市）	21
城里パーマカルチャー研究会（城里町）（森林環境学習+森林づくり+木づかい）	22

4 森林環境学習・木づかい

一般社団法人 茨城経営クラブ（水戸市）	24
もりとわ（ひたちなか市）	25

1. 森林づくり

団体名及び代表者名	いばらき森林クラブ 代表 加藤木 義郎
事業期間	令和2年5月1日から令和3年3月3日
主な事業実施場所	常陸太田市新宿町字山吹地内のヒノキ林
事業の参加者数	延べ110名（1回あたり最大13名、最小8名）
事業による活動実績	整備対象のヒノキ林は長年手入れされないまま放置されていたので、枯損木が多く、シラカシなどの雑木が繁り、昼間でも暗い場所になっていた。そのため、約1haの間伐、下刈り、小径木や枯損木の撤去などの森林づくりを実施した。
事業の成果	活動の結果、林内が明るくなり、健全な林となることが期待できる。また、この活動を通して森林整備の意義を再認識するとともに、混み入ったヒノキ林での間伐作業において、新しい手法を取り入れるなど、会員の技術向上を図ることができた。さらに、西山公園を訪れた地域の人たちとの対話を通して市民活動の意識の高揚に寄与することができた。
	
ミーティング後にラジオ体操で身体をほぐす	下層植生の上にヒノキが屹立する林内
	
間伐前に下層の低木などを刈払う	急斜面での伐倒作業
	
5倍力システムで掛り木を牽引	急斜面での枝払いと玉切り

団体名及び代表者名	つくばフォレストクラブ 代表 佐藤 定男
事業期間	令和2年5月27日から令和3年3月17日
主な事業実施場所	つくば市六斗 822 おぐろくの森
事業の参加者数	延べ71名（1回あたり最大14名、最小10名）
事業による活動実績	おぐろくの森にて篠竹、倒木、枯れ木を述べ71人によって整備した。その結果、おぐろくの森は明るい見通しの良い森に生まれ変わった。また、木材チップパーを遊歩道へ敷設したことにより、より体にも優しく林内を回ることができる遊歩道をつくることのできた。
事業の成果	おぐろくの森は約30haあり、人工林はその一部に過ぎない。森林整備の効果は大きく、コロナ禍の中で自然と触れ合うために森林を散策する住民等のウォーキング、バードウォッチャーが増え、安心して森を利用することへ寄与することができた。
	
篠竹伐採の様子	倒木処理の様子
	
篠竹の整理の様子	伐木の様子
	
遊歩道の様子	玉切りのあとの整理の様子

団体名及び代表者名	つくば森林クラブ 代表 青木 正
事業期間	令和2年6月 1 日から令和3年2月28日
主な事業実施場所	つくば市山口 1704-1
事業の参加者数	延べ42名（1回あたり最大8名、最小5名）
事業による活動実績	山口地区の主要道路に隣接する約5千㎡の檜林の整備を行った。林床の檜やアオキ、篠などの雑木を全伐した。次に枯れ木、不成長木を間伐した。今までに手入れをした形跡がなく、栗やひのきの大木も数本伐採する。
事業の成果	今回の林床の整備によって、林内が明るくなり、作業の安全性などが整備され、当初の目標は達成されたと考える。しかし、今回だけでは、樹幹がまだ十分に開かないので数年後間伐が必要である。
	
倒木の処理の様子	伐木の様子
	
枝打ちの様子	下刈りの様子
	
整備後の様子	看板

団体名及び代表者名	なか自然の会 会長 岡村 光雄
事業期間	令和2年7月25日から令和3年1月15日
主な事業実施場所	那珂市静百段 冒険の森
事業の参加者数	延べ113名（1回あたり最大15名、最小8名）
事業による活動実績	今年度は、7月～1月にかけて、冒険の森保全及び整備活動回数を10回実施した。（7/25, 8/1, 8/29, 10/5, 10/7, 11/9, 12/5, 12/7, 12/12, 1/12） 夏の猛暑とコロナ感染症で活動が制約されたが、出来る範囲で森林整備作業を実施した。また、9月と1月に冒険の森でハイキングを開催した。（参加者 9月18日：19名、1月15日：20名）
事業の成果	本事業により、冒険の森周辺の山林内に散策路を整備したほか、案内看板や地図を作成したことで、来訪者が安全に歩けるようになった。また、冒険の森内に見晴台を立てたことで、子供や住民の憩いの場ができた。 伐採や下草刈りといった森林整備作業を実施したことで、美しい里山になりつつある。



材料の搬入と組立作業



冒険の森内見晴台一号完成



案内看板設置



道標看板の設置作業



定期的の下草刈り



下草刈り完了

団体名及び代表者名	奥野里山山ゆり会 代表 桜井市郎
事業期間	令和2年6月 1 日から令和3年2月28日
主な事業実施場所	牛久市島田町字新切地内
事業の参加者数	延べ220名 (1回あたり最大50名、最小5名)
事業による活動実績	毎月第3月曜日を山ゆり作業日とし、篠などの下草刈り、それを粉砕して遊歩道に敷いた。また、山ゆりの環境を考慮し、採光を良くするために間伐を行った。荒れていた森林を整備し、おくの義務教育学校の生徒4年生と2年生と共に山ゆりの種を蒔き、ゆり根を植栽した。
事業の成果	荒れ放題の森林が遠くまで見通せるようになり、整備した遊歩道を散策する人も出てきた。山ゆりが本格的に咲くのは数年先だが、その時はたくさんの人達が訪れる山ゆり公園になっていると確信する。今では作業に従事してきた山ゆり会メンバーひとり一人の生きがいのになっている。
	
小学生との山ゆり植栽の様子	種蒔きの様子
	
支柱たての様子	篠刈りの様子
	
チップパーでの作業の様子	看板

団体名及び代表者名	神栖市美化運動推進連絡協議会 会長 才賀 秀樹
事業期間	令和2年10月1日から令和3年3月12日
主な事業実施場所	神栖市波崎海岸沿い
事業の参加者数	延べ500名
事業による活動実績	今年で7年目となる白浜青松再生プロジェクトで、海岸におけるマツの苗木の植樹祭を行った。苗木は、地元の林家より仕入れた1,500本と団体で種をまき育てている1,000本の計2,500本を植栽した。
事業の成果	今回のプロジェクトによって、海岸防風林の再生に貢献することができた。活動を通じて、防風林の大切さや自然の美しさなどをアピールすることができ、「自分たちのまちは自分たちで守る」という市民一人ひとりの意識の高さも伝わった。植樹祭の参加者からは、「こういった活動を7回も続けられていることに敬意を表します。」「こういった時期だからこそみんなで何かできたことがうれしい。」といった声もあった。



第7回 白浜青松再生プロジェクト



植栽されたマツの苗木



植樹祭の様子



植樹祭の様子



植栽前



植栽後

団体名及び代表者名	水戸森林クラブ 代表 照山 圭吾
事業期間	令和2年10月18日から令和3年3月4日
主な事業実施場所	ひたちなか市大字津田字下馬場地内
事業の参加者数	延べ24名（1回あたり最大10名、最小6名）
事業による活動実績	前年度に引き続き竹林の全伐、チップパーでの粉碎作業を実施した。伐採した竹の一部を近くの稲作耕作者が水田の暗渠排水の資材として有効活用することができた。地主さんからの要望に応えられたばかりでなく、地域の環境に調和した良好な景観の里山林になりつつある。
事業の成果	特に今年度は、斜面に道路をつくりチップパー（粉碎機）を斜面下に降ろして作業を進められたので、粉碎作業が効率良く進み、作業後の現地もきれいに整備することができた。活動を通して会員に森林環境の保全に対する意識の向上を図ることができた。また、伐採した竹の有効活用、景観の良い里山林の再生を通じて、地域住民に対し、森林の整備の必要性を啓発することができた。



最大人数の参加者集合写真



本年度第1回作業後の状況



伐採した竹を斜面の上に



チップパーを下ろすため、道路づくり



チップパーを斜面下に降ろして作業



今年度の森林整備はここまで

団体名及び代表者名	CAMP VILLAGE 代表 野原祥一
事業期間	令和2年10月1日から令和3年3月19日
主な事業実施場所	茨城県笠間市小原柳沢池周辺
事業の参加者数	延べ20名（1回あたり最大4名、最小2名）
事業による活動実績	笠間市小原のスギ・ヒノキ林において、下草刈りを実施した。また、長年放置されていたことにより、林内に多数倒木があったため、それらの整理や玉切り、集積作業を実施した。 また、現地へのアクセスをよくするために、作業道を整備した。
事業の成果	笠間市内の40年放置されていたスギ・ヒノキ林において、作業道を整備するとともに、下草刈りや倒木の整理等森林整備を実施できた。 次年度以降も、活動範囲を周辺に広げて森林整備を継続する。



作業道整備



下草刈り



倒木の玉切り作業



入り口の整備

団体名及び代表者名	森の守り人 代表 西野智子	
事業期間	令和2年4月1日から令和3年3月19日まで	
主な事業実施場所	水戸市上国井町 鹿島神社	
事業の参加者数	延べ700名（1回あたり最大50名、最小2名）	
事業による活動実績	<p>皮むき間伐法で植林した杉の皮を剥き、森の中で1年以上乾燥させ伐採した。活動には就労支援施設の方、森の幼稚園の子どもたちの参加で、次世代への森林整備の重要性を伝えながら、森の中で汗を流し活動を実行できた。</p> <p>また、イベント出店では丸太切り大会、板にお絵描き、職人さん指導の床板貼りワークショップなどを開催し、多くの方に森づくりへの関心を広げる活動を実行できた。</p>	
事業の成果	<p>活動に参加した就業支援施設の利用者の方から、自然の中で体を動かすことを体感し高評価をいただき、大きな成果へ繋がった。また、全国大会※で3年間の森づくりの活動と、今後の展望のプレゼンを発表する機会に2度参加したことで会員を含め士気を高められ、元気な森づくりの重要性を広げられたことは今後の活動の大きな力と繋がった。</p> <p>※2020 世界環境サミット、2021 脱炭素チャレンジカップ</p>	
		
杉の皮むき	子ども達の参加	伐採した材で職人さんの床張り WS
		
キャンプ場でのイベント	2020 世界環境サミット出場	脱炭素チャレンジカップ 2021 出場

団体名及び代表者名	薬師樹林を再生する会 会長 小田倉 康家
事業期間	令和2年4月1日から令和2年12月25日
主な事業実施場所	水戸市上国井町辻ノ内
事業の参加者数	延べ 200名（1回あたり最大25名、最小10名）
事業による活動実績	台風19号の那珂川氾濫による災害ゴミ搬出のあとに、新たな園路作成と復興記念植樹を住民の共同作業により行った。 浸水した休憩室(薬師堂)縁の下や手水舎の木質化を進め、木と親しんだ憩いの空間を作った。
事業の成果	新たな園路作成や復興記念植樹を共同作業で行うことにより、住民のコミュニケーションを深めることができた。 浸水した休憩室(薬師堂)縁の下や手水舎の木質化を進めることができ、木の持つ特性についてさらに理解が深められるようになった。



手水舎の木質化の材料と塗装



浸水した手水舎の復旧と補強作業



浸水した薬師堂縁の下の木質化作業



共同作業による新たな園路形成



新たな園路とベンチ・テーブル



新たな園路周辺での復興記念植樹

2. 木づかい

団体名及び代表者名	特定非営利活動法人 やみぞの森 理事長 石川多聞
事業期間	令和2年7月15日から令和3年3月19日
主な事業実施場所	笠間市 会員工務店作業所、つくば市 洞峰公園
事業の参加者数	延べ102名（1回あたり最大14名、最小3名）
事業による活動実績	ベンチ製作については、県産材のヒノキ間伐材を活用して、会員有志が技術指導者のもとでベンチ4基を製作し、洞峰公園（つくば市）へ寄贈した。 小冊子制作については、本事業のベンチづくりを通して、森林環境保全の大切さを発信するため「森林の保全→間伐の意義→間伐材の活用→ベンチ製作→公共施設へ寄贈→県民の利用」というストーリーを小冊子にまとめて発行した。
事業の成果	洞峰公園に寄贈した木製ベンチは好評で、県民の県産材に対する親しみ、材料としての木材の良さ、その活用の意義を体験しながら理解する場となった。大井川県知事からの感謝状を授与され、施設管理者からも「今後大いに活用したい」との言葉をいただき、施設の環境整備という目的は達成できた。小冊子は森林保全の啓発を図る有効なツールとして評価が高い。



制作したベンチ4基は洞峰公園へ寄贈



ベンチづくりを工程に沿って小冊子にまとめ発行



寄贈式では土浦土木事務所長から県知事名の感謝状授与



製作風景：ほぞ継ぎ部分をノミと金づちで加工



部材加工後は全体を調整しながら組み立て



表面を研磨した後に無色の保護塗料を塗布

団体名及び代表者名	スタジオやさび 代表 井上岳
事業期間	令和2年7月10日から令和3年2月28日まで
主な事業実施場所	石岡市瓦谷字長峰 1600 番 1
事業の参加者数	延べ47名（1回あたり最大12名、最小3名）
事業による活動実績	石岡市八郷地区の林齢約50年の森の入り口に間伐材で製作したサイクルラック及びミニサイクルステーションを設置した。製作に至っては間伐材の皮むき等を、地域住民の参加によるワークショップ形式とした。
事業の成果	サイクルラックだけでなくベンチも設置することで、サイクリストはもちろん、広く一般の人々にも休憩所として公共的な場を作ることができた。また、県道42号線と平地林の境界付近にステーションを設置することで、サイクリストや一般の方々が森林を身近に感じることができる休憩所となった。
	
切り出した材の様子	皮むきイベントの様子
	
設置場所の地ならしの様子	サイクルラック
	
制作の様子	完成した様子

3. 森林環境学習・森林づくり

団体名及び代表者名	特定非営利活動法人 エコ・グリーンいばらき
事業期間	令和2年4月1日から令和3年2月10日
主な事業実施場所	水戸市栗崎町大字原山地区内
事業の参加者数	延べ60名（1回あたり最大24名、最小5名）
事業による活動実績	<p>緑豊かな里地・里山・平地林を未来の子どもたちに引き継ぐため、木戸房池周辺の平地林において地元13団体で『協働』で作業を行っている。平地林内の下草刈り、伐採木破砕機によるチップ化及び園路敷き均しなどを行った。</p> <p>野鳥に関する講演会及び巣箱製作設置事業は新型コロナの影響で中止となった。</p>
事業の成果	<p>地域町内会など13団体と連携することにより、地域の里地・里山・平地林の森林整備に積極的に参加して地域の環境整備の大切さなど自然に対する意識が強くなったと思える。</p> <p>今回、新型コロナの影響等で野鳥観察、巣箱製作設置、しいたけ原木栽培等の事業が中止となった。</p>



作業協力者への軍手・マスク配布及びアルコール消毒



破砕機によりチップ化したものを園路に敷き均し



体感の森下草刈り及び園路整備



野鳥の森下草刈り及び落ち葉

団体名及び代表者名	特定非営利活動法人 宍塚の自然と歴史の会 理事長 森本信生
事業期間	令和2年7月1日から令和3年3月7日まで
主な事業実施場所	土浦市宍塚字半溜 751
事業の参加者数	延べ75名（1回あたり最大47名、最小6名）
事業による活動実績	生物多様性のある森づくりのため、竹林整備として伐採や下刈り、落ち葉かきを行った。また、茨城県霞ヶ浦環境科学センターにて里山保全学習会を開催し、NPO 法人としての活動を通して、どのように里山の保全に貢献できるかについて講演した。
事業の成果	里山保全学習会を開催することにより、宍塚の里山の重要性と保全方法を市民に伝えることができた。伐採、下草刈り、落ち葉かきをしたことにより、林床植物等が生えてくる条件が整った。竹林の侵入拡大を防ぎ適切な竹林管理を行うことができた。



伐竹の様子



下刈りの様子



伐竹の様子



セミナーの様子



セミナーの様子



看板

団体名及び代表者名	茨城県南発明アイデア研究会 会長 近藤清磨
事業期間	令和2年8月31日から令和3年3月18日まで
主な事業実施場所	茨城県龍ケ崎市羽原町 1062
事業の参加者数	延べ80名（1回あたり最大50名、最小2名）
事業による活動実績	密生し倒れ掛かり、荒れ放題になって入り込むこともできない状況の林を間伐し、整然と且つ天まで伸びるきれいな竹林に変わった。また、龍ケ崎市の小中学生を対象(科学クラブの参加者等)に、竹林整備の作業を体験してもらった。
事業の成果	竹林整備に必要な道具を予定通り購入し、効率的にかつ安全に作業を実施できた。竹の焼却にも無煙炭化機を使うなど、環境に配慮した活動を行った。子供たち約15人、その父兄他に現地の竹林に来てもらい、竹林整備の実態を体験してもらい、竹林整備への意識を高めることができた。
	
竹林整備体験の林内見学の様子	竹林整備体験の林内見学の様子
	
竹林整備体験の挨拶の様子	伐採した竹の玉切り作業の様子
	
竹チップ作成の様子	竹チップ配布の様子

団体名及び代表者名	おおいがわ事務所プロボノ研究会 代表 大井川 裕代
事業期間	令和2年9月15日から令和3年3月15日まで
主な事業実施場所	稲敷郡阿見町君島 491
事業の参加者数	延べ400名（1回あたり最大381名（ZOOM）最小7名）
事業による活動実績	竹林における伐採と竹の精油を抽出できる竹の選別を体験を交えて行った。また、竹林整備を行った際に出る竹材の利活用について動画やZOOM等を用いたセミナーを行い、竹資材の活用は多様性と生活につながっていることを広報できた。NPOが運営しているインターネットテレビを通じて活動の様子をユーチューブ動画で発信した。
事業の成果	竹の抽出液はあまり認知されていないが簡単にできる方法があることについて、インターネットセミナー開催により健康や美容などにも竹を気軽に活用できることを周知できた。また、竹林整備も同時に行ったことで、山林の保全にも貢献することができた。
	
竹林整備の様子	竹抽出液を使ったマスクスプレー
	
イベントでの勉強会の様子	イベントでの竹エキス抽出の様子

団体名及び代表者名	結城里山の会 会長 海老澤 功
事業期間	令和2年8月30日から令和3年3月14日
主な事業実施場所	結城市田間地内 結城市健康の森
事業の参加者数	延べ 942 名 (1 回あたり最大 600 名、最小 4 名)
事業による活動実績	8 月末から 3 月にかけて里山整備を 13 回実施した。子ども向けイベントはマスク着用、消毒実施で 10 月に開催し、市民向けの「健康の森フェスティバル」は受付でマスク着用・検温実施・消毒実施で開催を支援した。 地元小学校 6 年生による植樹は 2 月にコナラ 35 本実施し、会員もモミジ・ヒメシャラ・金木犀・本榊を植樹した。地元小学校 4 年生の森の授業の支援も 2 回実施した。
事業の成果	下草刈りや間伐及び粗朶の整理などの里山整備は計画通りに進んだ。子供たち向けの体験活動イベントはコロナウィルス感染の影響による制限を受けることとなったが、父兄参加での実施により、その後里山へ市民が散策に訪れたり子供連れで遊びにきたりしている。



下刈りの作業



間伐作業



健康の森フェスティバル(自然観察会)



森の授業支援(生き物調査)



地元小学生による植樹



モミジ・ヒメシャラ・金木犀・本榊の植樹

団体名及び代表者名	城里パーマカルチャー研究会 代表 井出 光弘	
事業期間	令和2年5月30日から令和3年3月19日	
主な事業実施場所	城里町小坂 127	
事業の参加者数	延べ20名（1回あたり最大10名、最小1名）	
事業による活動実績	<p>月1回、フィールドの草刈や倒木処理、それらの活動に必要な技術習得目的の勉強会等を行った。勉強会には林業経験の長い講師を招き、安全作業に関する知識を得た。</p> <p>今後フィールド内の散策道整備に向けて、重機の免許を有するメンバーが操作に慣れるため、重機を本部の近くに設置し自由に練習可能とした。</p> <p>前年度皮むき間伐をした木を使ったベンチをフィールド付近に設置した。</p> <p>ボーイスカウトを招いて、樹冠長率や形状比から樹木の健康度を知るといふ森林学習を行った。</p>	
事業の成果	<p>間伐を行ったことで、林床に光が入り植生が多様になることが期待される。森林整備技術の勉強会の実施により、メンバーの技術が向上し、活動がスムーズに行うことができるようになった。また、倒木などを処理したことで、林内を安全に散策できるようになった。</p> <p>森林学習に参加した子供たちが、森林の果たす役割を考えるきっかけ作りが出来た。樹高の測り方、木の健康度の見方を知ってもらうことができた。皮むき間伐材で作成したベンチを、森林学習の際に活用することができた。</p>	
		
刈り払い機の刃の研ぎ方を習う様子	フィールドの境界調査	皮むき間伐材で作成したベンチ
		
ボーイスカウトを招いて森林学習を行い、森林の果たす役割について一緒に学んだ。写真は樹高を測っているところ	森林整備に必要な重機操作を練習するメンバーの様子	森林整備に必要なチェーンソーの目立てと、メンテナンス技術の講習会の様子

4. 森林環境学習・木づかい

団体名及び代表者名	一般社団法人 茨城経営クラブ 代表理事 成田浩明
事業期間	令和2年9月1日から令和3年3月17日まで
主な事業実施場所	ケーズデンキスタジアム水戸
事業の参加者数	延べ250名（1回あたり最大250名）
事業による活動実績	<p>イベント当日は、箸づくり体験に60名、食育ナプキン折り体験に50名が参加した。また、森林等に関するアンケートは101名に協力いただいた。</p> <p>箸づくり体験では、漆の専門家が参加者に対して漆を塗る前の削りの工程に助言したほか、漆の特性について説明をした。</p>
事業の成果	<p>コロナ禍の中、注意すべき点多かったが、密集を避けるための工夫・レイアウトにより安全に体験イベントを実施できた。</p> <p>箸づくりでは、参加希望者に整理券を配り、間隔を保ちながら実施できた。又、漆専門家4人にボランティアで協力いただいた結果、参加者の質問等に対し丁寧な説明で答えることができた。</p> <p>食育では、日本の食卓と、西洋の食卓とを比較出来るナプキン折体験を1人1台のPCを準備して動画により詳しい説明を聞きながら体験ができた。</p> <p>同じく、緑育でも大きめのモニターでわかりやすく茨城の森林についての説明を流すことで、参加者の理解を深めることができた。</p>
	
受付：検温後整理券を配布して混雑をさける	県産漆で仕上げた漆製品の展示と会場前面
	
箸づくり：各自手袋をつけて、カンナで箸の形にする	ナプキン折体験：PCで動画により実施、感染防止にも留意
	
ナプキン折に挑戦したチアガール	ハレ（県産八溝杉）とケ（県産檜と漆）の箸

団体名及び代表者名	もりとわ 代表 清宮美香
事業期間	令和2年4月1日から令和3年3月14日
主な事業実施場所	ひたちなか市 正安寺、古民家またたび 水戸市 森林公園、常陸大宮市 緒川総合センター
事業の参加者数	延べ709名（1回あたり最大130名、最小3名）
事業による活動実績	今年度はワークショップ準備ややすり掛け作業を35回、木工体験と森のお話を6回、イベントでのパネル展示と木工体験ブースの出店を3回、実施した。 また、森のお話の紙芝居バージョンを作成したほか、間伐材の箸づくりキットを考案して作成した。さらに、水戸市立千波小学校に卒業記念品を提案し、製作した。 会員の木工工作指導力向上のため、木工作家さんのレッスンも受講した。
事業の成果（※2）	新たな加工技術の習得や、木育や環境学習を行ううえでの知識向上の機会を積極的に設け、活動充実・会員の指導力向上に繋げることができた。 森のお話を低年齢の子供に伝えるために紙芝居を作成したり、会員が直接指導しなくても間伐材のお箸を作る「箸づくりキット」を考案したり伝え方を工夫した。 コロナ禍で、出張木工体験や森のお話会、イベント出店等、実施できない事もあったが、昨年までの活動実績から繋がったご縁で声が掛かり、実施できた事業もあった。結果、予定と同等の人数に向けて木に触れる体験を提供し、日本と世界の森を取り巻く現状、森林の良さ・大切さ、林業（間伐）の必要性を伝えられた。
	
WS 準備など木工作业（古民家またたび・正安寺）	親子木工体験+森のお話会（ひたちなか市立東石川幼稚園）
 	
木工作家さんによるレッスンの受講	親子木工体験+森のお話会(水戸市森林公園)
	 
イベント出店（ひたちなか市公園）	親子木工体験+森のお話会（常陸大宮市小川総合センター）